

うつば技術研究会 1月例会報告

1. 日 時：令和6年1月23日（木）16時30分～17時30分
2. 場 所：Zoomを使用。
3. 出席者：24名
4. 話題提供：吉田 邦晃(建設、総監)
5. テーマ：公益法人としての事業運営について（その2）
6. 配布資料：公益法人としての事業運営について（その2）
7. 実施概要：話題提供40分、質疑応答20分

-1 話題提供：

（要旨）令和4年11月の「うつば技術研究会」で上記のテーマで話題提供をしましたが、今回は（その2）としての補足説明と2025年4月から「公益法人制度」が変わることについての話題が提供された。

主な話題項目

- ・協会の設立及び組織について
- ・設立時からの現在までの売上高について
- ・現在の各事業の運営と課題について
- ・公益法人制度の変更（収益事業の届出・外部理事監事の導入）

主な討議項目

- ・協会の今後のあるべき姿
- ・各事業の事業拡大について

-2 質疑・意見交換

1)

加藤：監査業務については15%の自治体で受注しているが、今後伸ばしていく戦略はあるか？

理事長：現在受注している市・町・村でやってきた方法を中心に他の自治体へ展開する。

加藤：令和6年度の売り上げの予想は？

理事長：6千万は超える予想である。

加藤：公益法人制度の変更により収支相償が2年から5年になった影響は？

理事長：あまりないと思う。

加藤：公益法人制度の変更のための事務処理や外部理事・監事の導入が必要となるがこれについては？

理事長：外部理事については売上額3千万以上の事業体は入れる必要がある。ただし、売上額に対して、現実的な人材を探している。

2)

理事長：会員の満足度向上のために、新規事業として新しい分野（化学・金属・情報工学・経営工学部門等）の検討を進めてほしい。例えば、要望があり1級土木施工管理技士講座を新しく始めたが、このような新しい事業の企画を会員サイドからどんどん出して事業に参画ほしい。また、需要が見込まれるものの当協会員の技術士が少ない地域の技術士を増強することで市場を開拓して、受注の拡大を狙っていきたい。

この場では特段の意見はなかったため、協会誌などを通じて会員に向けて周知しているが、更に継続して意見と事業提案を募集していくこととなった。その際の窓口としては、竹田専務理事が指名された。

（佐々木 一恵 記）